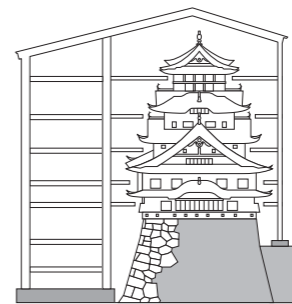




姫路城を守る。その想いは、歴代の城主にも負けない。

海拔91.9mの高さにそびえる、姫路城。ここは本来なら、大空を舞う鳥たちにしか眺めることのできない、特別なアングルです。13階建てビルにも相当する巨大な大天守をまるごと覆った、さらに巨大な「素屋根(すやね)」。その内部で、丹念に、長い時間をかけて、「平成の保存修理」が進められてきたのです。国宝、かつ世界文化遺産。そして何より、時を越えてたくさんの人々に愛されてきた姫路城を、未来へ受け継ぐ。半世紀前の「昭和大修理」につづいて、鹿島建設を中心とした共同企業体が担う、歴史的プロジェクトです。「白鷺城」とも称されてきたほどの、白くまばゆい姿を、再び姫路の風景に取り戻さなければ。歴代の城主たちにも恥じない仕事をするのが、私たちの使命でした。総数約80,000枚に及ぶ大天守の屋根瓦は、1枚1枚をすべて解体。長年の汚れを落として元に戻しながら、

全面ふき替えを行いました。姫路城を輝かせる白い漆喰も、全体を塗り替えました。外壁から、屋根瓦の目地まで。これほどの漆喰が生かされる建築は、姫路城の他にありません。美しさを未来に残すだけでなく、技術や伝統をも後世に受け継ぐ、貴重な現場になったのです。そして、姫路城は、生まれ変わりました。いよいよ私たちに残された仕事は、長らく大天守を守ってきた素屋根を、無事に解体すること。絶対に、この世界文化遺産を傷つけることなく、慎重に、そっと。お披露目は来年、春。まるで、飛び立つその日を待ちこがれているかのように。姫路の「白鷺」は、今日も大空を見上げています。



100年をつくる会社
鹿島